

14日から

ヒロシマ 写真で伝える

松前出身 県美術館で原爆展



愛媛での広島原爆展を開く大西知子さん
＝4日午後、広島市

73年前に原爆が投下された広島の様子を伝える「平和への発信―広島原爆展」が14、19日、松山市堀之内の県美術館南館で開かれる。松前町出身で、平和記念公園や平和記念資料館を案内するピースボランティアとして活動する小学校臨時教諭の大西知子さん(69)は「広島市」が保管する被爆直後の広島の写真の展示や、被爆証言の短編動画の上映などを通じ、平和の尊さや原爆の恐ろしさを訴える。

大西さんは32歳の時に結婚して広島市に移り、1999年からピースボランティアとして活動を始めた。被爆体験の記録や資料の収集なども精力的に行い、2011年からは市長が平和記

爆者の姿や、破壊された街の様子などを撮影した元中国新聞カメラマンの写真、資料館のポスターなど約200点を展示する。

原爆で両親らを失った広島市の男性を大西さんが取材し制作した短編ドキュメンタリー「原爆孤児の魂」などの上映のほか、平和の祈りを込めて鶴を折るコーナーを設ける。

大西さんは「多くの人に原爆について少しでも身近に感じてほしい、広島を訪れてほしい」と呼び掛けている。時間は午前9時40分～午後6時で、初日の14日は午後2時から始まり、最終日の19日は午後3時に終了する。入場無料。問い合わせは大西さんへ電話090(2862)5983。

(桑原大輔)